

## 平成 29 年度第 2 回運営幹事会 議事録

作井技術委員会 事務局

平成 29 年 7 月 27 日(木)16:30-17:50

開催場所: 日本海洋掘削株式会社 本社会議室 5M-1, 2

出席者: 古谷委員長、JDC 末永、前田、INPEX 工藤、藤田、東大長縄、JAPEX 菅野、筑井

JDC 藤井、木下、橋口、MQJ 峰、佐々木(敬称略)

欠席者: MQJ 石黒、JMH 池田、出光興産三好、テルナイト佐藤(敬称略)

### 議題 1: 報告事項

#### 1-1. 大水深掘削技術分科会

次回 9 月下旬に行う予定で調整中。

#### 1-2. 協会理事会

理事会議事について古谷委員長より説明がなされた。

### 議題 2: 春季講演会作井部門の総括

#### 2-1. 参加人数

6 月 14 日(水) シンポジウム 9 講演 参加者: 最多 150 名(前年度 65 名)

6 月 15 日(木) 個人講演 19 講演 参加者: 最多 115 名(前年度 90 名)

懇親会参加者: 100 名(前年度 65 名)

東京が会場だったこともあり、全体として前回の秋田よりも多くの方が参加された。

#### 2-2. アンケート結果

##### 事務局サイドの運営面での反省事項

- 3 人掛けのテーブルの真ん中の席へ誘導しきれず、立ち見が多く発生してしまった時間帯があった。結果的には最大収容人数以上の来場者があったため他会場からイスを増設せざるを得ない事態にはなったが、空席があるのに会場後方の扉付近で立ち見されるのはその都度イスをわざわざ用意する対応も含め会場運営上余計な手間であった。
  - 特定の講演、時間帯のみの来場者も見受けられ、それらの人たちには真ん中の席への誘導も効果がなかった。会場設営時に、あらかじめ全テーブルの真ん中の席を会場後方に並べ、短期来場者席としてもよかった。
- マイクがうまく声を拾わず、聞き取りづらい講演があった。
  - 講演者のマイク使用の癖に因らないピンマイクの導入も検討する。
- Q&A 席を生かしきれなかった。
  - 事務局からより明確に指示、運営する必要があり、次回は事前準備を徹底する。
- 講演時間の問題
  - 今年度は講演数を制限しなかったため一件あたりの時間を短縮せざるを得なかった。来年度は一件あたりの講演時間まで念頭に方針を決める。また、初めから司会者席に予鈴のタイムを掲示するなどして講演のタイムスケジュール管理を徹底すべきだった。

- 懇親会について、参加人数の見積もりが甘くそれに伴い会場の手狭感・飲食物の量の見積もり・店員一人による当日対応が悪いといった反省点が挙げられた。
  - 参加者人数の把握は当日参加も認めためどうしても難しさがある。また懇親会会場も現実的に近場にちょうど良い大きさのお店があるわけでもなく、代々木会場内という立地の優位性は大きい。

#### 2-3. 個人講演について

- 学生発表 4 件に対し、優秀発表賞は該当がなかった。

#### 2-4. シンポジウム原稿・討論録等について

- 作井部門のシンポジウム講演原稿の進捗が説明され、数件を除き概ねスケジュールどおりであることを確認。
- 8/10 の編集委員会が行われ、作井技術委員会から事務局 藤井が参加し作井技術委員会シンポジウム講演原稿の進捗を説明する。
- 討論録等の取り扱い
  - 討論会での発言者名が分からない場合の発言趣旨の確認について、パネルディスカッションでもないので各人への確認はせず、運営幹事にて討論録の内容確認を行う。
  - 各シンポジウム講演に対する質疑応答の内容までは原稿に記載せず。
  - 事前アンケートの結果も資料としてまとめ、今年度も協会誌へ掲載する。

### 議題 3: 作井技術委員会の活動計画の審議

#### 3-1. 活動方針(案)

若手技術者交流会を新たに分科会として発足させるべく、活動方針へ追記した箇所を確認。

#### 3-2. 年間スケジュール

- 幹事会や講演会のスケジュールやそのときの活動内容について説明がされた。
- 第 1 回作井技術委員会については 9 月最終週に開催することを確認。まずは特別講演候補者の方とスケジュール調整を行い、その後作井技術委員と日程を調整する。

#### 3-3. 活動費予算

- 分科会予算について継続検討を確認。

#### 3-4. 作井技術委員会 特別講演テーマ案

- テーマについて継続検討を確認。

### 議題 4: その他

#### 4-1. 運営幹事・委員の変更

#### 4-2. 「若手技術者交流会」の分科会化へ向けて

初代座長として JAPEX 片岡氏へ打診する旨を確認。

以上